



つじどう小だより

2025年9月4日

藤沢市立辻堂小学校

校長 納富 崇典

夏の経験を力に変えて

長かった夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が校舎に戻ってきました。始業式の日から今年も100人の子にインタビューをしてみました。夏休みの過ごし方や今の気持ちを聞いてみると、それぞれの成長や思いが感じられる答えが返ってきました。

今の気持ちを聞かせてください：「早く学校に行きたかった」という回答と「もう少し休みたかった」という回答が同じぐらいでした。「早く学校へ行きたかった」と話す低学年の子の表情と、習い事が辛くて「学校が始まって欲しかった」と話す高学年の子の表情が対照的でした。



夏休み続けてやったことは何ですか：最も多かったのは「スポーツや運動」でした。サッカーや野球、水泳などが上位でした。暑い中がんばったねと話す、練習の様子を詳しく話してくれる子もいました。また、「勉強」と答えた子が一定数いたことに嬉しさを感じました。とても満足そうに答える子が多かったです。自由研究や繰り返しの学習に計画的に取り組んだようです。インタビューしてみて、多くの子が自分なりの挑戦を続けていることがわかりました。「継続は力なり」続けることは単なる努力の積み重ねではなく、内面の強さも育てます。9月からの学校生活でも、その経験を力に変えて、更に一步前へ進んで欲しいものです。

問1 今日の気持ちはどうですか ①学校に行きたかった41人②もう少し休みたかった40人③どちらでもない17人④その他2人

問2 夏休み続けてやったことはどんなことですか ①スポーツ31人②勉強27人③ゲーム、ユーチューブ14人④お手伝い12人⑤読書13人⑥その他3人

9月1日防災の日

7月30日(水)カムチャッカ半島付近で起きた地震の影響で津波警報が出た日のこと覚えているでしょうか。本校には、140人の地域の方が避難してきました。避難所として市が開設したのは高砂小、八松小、鵜沼小、鵜沼小でしたが、本校にも一時的に避難してくる人がいたため、職員で対応しました。JR東海道線は止まり、引き渡し対応となった学童の子達は夕方まで本校に滞在する子もいました。18時半に避難者は0人になったのですが、もし、これが夏休みでない時に起きていたら、どうなっただろうかと怖くなりました。地域の方と毎年避難所運営委員会を開催し、避難所になった時のことを想定はしていますが、実際に避難してきた方に対応して、多くの課題がみつかった日となりました。

9月1日は、防災の日でもあったため、子ども達には安全についての話しをしました。学校での避難訓練は欠かさず行っていますので動きについての知識はあります。しかし、登下校中に地震が起きたらどうするか。通学路には落ちてくるもの、倒れてくるものはないか等、確認することを伝えました。また、地震後、家に入れない場合、家族とどこで待ち合わせするか。交通網が寸断され職場から両親がすぐに戻れない場合にどのぐらい戻るのに時間がかかるか。各家庭での約束を確認することを伝えました。ちなみに我が家では一時的には、自宅下の公園、避難場所は近くの小学校へ行くことを決めています。そして仕事柄、2日ぐらいは戻れないことも伝えてあります。日頃の心構えが大切だと聞いています。ぜひ、家庭で話題にしてください。